

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモモの家		
所在地	札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号		
自己評価作成日	平成 26年 12月 31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503627-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 1 月 30 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として生活できるホームを目指し、解説時の職員で理念を考えました。町内会行事への参加やホーム行事開催時には近隣へのご挨拶を行い、理解していただけるよう努めています。朝礼時に理念の唱和を行い理念に基づいた支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店へ買い物に出かけたり、町内会行事への参加を通して近隣の方達と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学に来られたご家族や、町内会の方からの質問にお答えしています。運営推進会議では、ホームでの支援内容等をお伝えし、広報の紙面でも伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括職員や町内会、家族の方達に参加していただき取組状況について報告しています。いただいた助言や情報はサービス内容に取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者連絡会や地区会議への参加の他、報告書類等は送付ではなく直接手渡し、取り組み内容の報告を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアミーティングやホーム内の研修時に禁止の対象となる11項目の具体的な行為について研修をおこなっています。玄関の施錠も夜間の防犯のための施錠として行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてホーム内年間研修に取り入れて日々の支援の振り返りを行っています。入居者の身体に変化があった場合は介助方法や支援の内容を見直す事で虐待が見過ごされないような環境づくりをし防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域のケア連絡会や他施設等の研修会に参加し理解に努めています。利用希望のご家族や問い合わせのある場合は話し合いの機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文書と口頭で説明を行い同意を得ています。解約・改定時にも同様に説明を行っています。ご家族やご本人の不安や疑問については都度対応させていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いを汲み取れるよう、日常会話や表情・行動から把握するように努め、カンファレンスやご家族の来訪時に報告をして意見・要望をお聞きしています。又、積極的に声を掛けさせていただくことで話しやすい雰囲気づくりをしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やフロアミーティング時の他、日常的に疑問点や意見を聞けるようコミュニケーションを図り、定期面談を実施し個別の意見を聞く機会を作っています。職員が中心となり各業務の役割分担をする事で運営に参加しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議ではフロアの人事や各職員の勤務状況について報告を受け、問題点や課題があれば都度対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けた際には研修手当を支給し職員が参加しやすいようにしている。職員に必要と思われる研修はシフト調整等工夫をしながら参加の機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区会議やケア連絡会等の勉強会や交流会には管理者だけでなく職員も参加し、交流の機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をしながら不安や困り事がないか傾聴するだけでなく、表情や行動からもご本人の思いを感じ取り安心して笑顔で接していただけるように接しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、生活歴や心身状態等もお伺いしご家族、ご本人の不安や困り事をお聞きしています。要望があれば可能な限り対応できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人の意向を踏まえた上でホームの方針説明や他サービスの情報提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は継続してできるように工夫し、それぞれ役割を持つことで共同生活を意識してもらえよう支援しています。入居者の方の得意な家事や趣味なども職員に教えていただく場面づくりをするなどして関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には日々の生活の様子や支援内容・体調面の報告をして、ご家族の気持ちや要望を伺っています。ご家族との外出・外泊時は不安に思う事をお伺いして、支援方法や介助方法をお伝えし一緒に過ごす時間を大切にいただけるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪時はお部屋でゆっくり面会をして頂いたり、電話があった時は取り次いでいます。友人・知人の方達と関わる中で困る様子が見られるときは職員も会話に入り関係が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協力しながら家事ができるように場面づくりをしています。家事以外でも、それぞれの得意な事を活かして協力したり支え合えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談がある時は随時対応しています。又、退去後も行事参加のお誘いをしたり、ご家族がホームに立ち寄りたり連絡しやすい雰囲気をつくるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話から、ご本人の望む生活や意向を引き出すように支援しています。表情や様子も記録に記入して本人視点でアセスメントを行い介護計画へ反映させています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人から生活歴を伺っています。入居後も、ご本人から情報を得られるように支援をしたり、ご家族の来訪時にも具体的な場面について以前の状況を伺い馴染みの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子をご本人の表情や言葉で記録し、何がどこまで出来るのかを見極めるようにして現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の生活の様子を記録し、職員間で情報を共有することでカンファレンスやモニタリングの際に各職員の意見や気づきを取り込んで介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にご本人の様子を記入するだけでなく、その時の状況や対応についても記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の要望、意向に対して随時話し合い迅速な対応ができるように取り組んでいます。サービス内容以外の事であってもご本人が「～したい」と意欲がみられるときは都度、実現できるよう職員間で調整を行い支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事の参加など地域の交流を図っています。又、近隣のお店への買い物、馴染みの美容院の利用等、ご本人の望む生活をする事で楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望された医療機関へ受診が出来るように看護師を中心として医療との連携を図り支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な情報はケース記録へ記入し、申し送り時に看護師と情報交換を行っています。申し送り以外にも、体調の変化がみられたり気になる症状がある場合は、都度相談をして適切な受診・対応経過が行えるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活の様子を申し送り、ご本人にとって必要な支援が継続されるように努めています。早期退院に向けご家族との連携を密にして医療機関との調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や見学時にはホームで出来る対応や医療機関との連携についてご説明をさせていただいています。重度化が予測される場合は早い段階でご家族へ終末期ケアについての意向や要望を確認しご本人にとって最善を考慮し支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア事務室のマニュアルファイルに事故発生時の対応や救急時の対応が記載しています。又、フロアミーティング時には定期研修に組み込み、対応できるよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練時には町内会の方にも参加していただき、職員と共に利用者が安全に避難できるよう演習を行っています。火災時には通報と同時に近隣の町内会の方に連絡が行くようになっていきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の先輩として関わり指示口調や子供扱いにならないように留意しています。個人的な支援については他に聞かれないよう配慮して離れた場所に移動したり小さな声で話すように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、何をしたいか・どうしたいのかを表してもらえるように言葉かけをしたり、意図的な質問をしています。上手く表現できない方には、二者択一で選んでいただいたり、生活歴やご家族の情報をもとにご本人の目線に立った支援が出来るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話や表情から要望や思いを汲み取り、希望や意向に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服が選べるよう支援を行っています。おしゃれへの関心が薄れないよう服や髪型などの話題も意図的に行なうように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や季節の話題等で食べたいものや好みの食材を選んでいただいたり、献立作成時に相談をする事で食事を楽しむ事が出来るよう支援しています。味付け・盛り付け・配膳・後片付けとそれぞれ得意な事で参加できるように場面づくりをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録に記入して必要量の摂取が出来ているか確認をしています。摂取量が少ない方には好みのもので捕食が出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けを行い、ご自身で迷う事なくできるように職員も一緒に歯磨きを行っています。仕上げの確認や磨き残しの介助は歯科医や歯科衛生士のアドバイスを参考に支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗からすぐにオムツやパットの使用を検討するのではなく排泄のパターンの把握やご本人が解りやすいトイレの表示になっているか等環境面からも工夫をして排泄の自立に向け支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取・運動・食事などご本人の趣向やペースを考慮しながら日常生活の中に取り入れています。下剤の使用が必要な時は状態に合わせて服用量を調整することでご本人の体に負担にならないよう配慮しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を確認し、希望の時間に入浴できるように支援しています。入浴を好まない方には「お風呂にはいろいろかな」と思ってもらえるような雰囲気や場面づくりを行って入浴が楽しみな事になるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調や体力に合わせて休息やお昼寝が出来るように支援しています。夜間眠れない様子の時はホットミルクを提供したり、不安に思う事が無いよう会話をしたり室温・寝具の状態を確認し安眠に向けて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方がある時は薬の数と説明書の内容を確認しています。薬の変更があった時は症状の変化や体調の変化に気を付け経過を見る事で副作用や悪化がみられた時は看護師や主治医へ報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者の得意な事や好きな事を知り、余暇時間に作品作りをしたり、家事支援に取り入れる事で役割や楽しみを持って生活できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩等ご本人の希望に添って外出できるように支援しています。外出行事は入居者の方達の希望を取り入れるなどして外出できるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には所持金を持っていただいています。買い物に出かけた時には支払いやつり銭の受け渡しができるように支援しています。各自お小遣い帳に記入をして残金管理もご自身で出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼や近況報告等がある時はご家族や知人の方へ電話やお手紙を書けるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の作品を飾ったり、季節行事の飾り付けも入居者が行えるように支援しています。トイレの表示も分かりやすいように工夫をしています。入居者の方達が好きな歌が口ずさめるように、入居者の方が歌詞を書いたものを張り出して楽しく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にイスを配置して、リビング以外でも好きな時に気の合う入居者の方達が談話できるように支援しています。洗濯物を畳みながら家族のお話をしたり、外の景色を見ながらお茶会をしたりする場面がみられています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた家具や持ち物を持ち込んでいただけるとご家族にお話ししています。入居後もご本人の趣味の作品や好みのものを飾れるよう支援しています。配置換えもご本人と相談して使いやすいように行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表示はご自身で記入して頂いたり、好きな写真や絵を飾る事で「わかる」環境づくりをしています。		